

十日
三
日刊
**東
京
時
報**

福島縣石城郡平田町屋町
福島縣石城郡平田町屋町
印 刷 金發行人 間 田 弘 成
福島縣石城郡平田町屋町
印 刷 所 加納活版所
福島縣石城郡平田町屋町
發 行 所 石城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料 行大字 諸金五十錢
▲ 日刊 (日曜、祭日) 休刊

居るか此の中諸橋氏は本縣第一の釜屋王國主として社會的信用他候補とは格段の相違で手中に收めた委任狀一萬三千を擁して爾然たる強味を示し馬場氏また縣内民政派唯一の候補者として心の所持する委任狀一萬と全縣

炎暑襲來
賑ふ各濱

輸を希望して出島の意志ある
ので金成氏と諸様氏の間に立
ち斡旋の勢を執つてゐたが不
損害約五千圓程度

新編　第一回
諸侯の内紛　明治天皇の御代
諸侯の内紛　明治天皇の御代

居るが此の中諸橋氏は本縣第一の釜屋王國主として社會的信用他候補とは格段の相違で手中に收めた委任狀一萬三千を擁して爾然たる強味を示し馬場氏また縣内民政派唯一の候補者として心の所持する委任狀一萬と全縣下民政派一致の推薦で當選は問題ないものと見られ殘る金成氏は既に二期農銀重役として貢献し今回は當選後進に路を開くものとの豫想を裏切り敢然出馬したが現在のところ諸橋、馬場兩氏との妥協は望みなく金成派得意の戰術を以つて奇勝を博せんとしてゐる實状である。

四倉人出一萬五千

俄然天候快復！昨十二日の日は今夏始めての快晴で氣温急激に上昇して正午過には待の九十度線を漸く突破、どうやら盛夏らしい炎天に昨日まで各濱も炎天を避けて涼を求むびれにさびれ切つてゐた避暑人達で賑ひ四倉の約一萬五千小名濱八千、農間・江名・勿千人の人出に比し約半數であ

炎暑襲來
賑ふ各濱

勿來野球協會創立
記念野球大會開催

底銀重役として
諸橋氏は最適任
縣財界の爲めに之
木村前代士語

三候抽安協絕望

松主委任狀の奪取戰
諸橋氏斷然有効

農銀重役候補として斷然たる強各關係方部に對し次の如き挨拶味を示してゐる平町諸橋久太郎氏の當選は殆んど確定的と見らる折柄同氏の出馬に一大衝撃をうけた某派は砲まで諸橋氏を蹴落さんと至る策動を續け諸橋氏に起意なく周囲の者が昇り上げてゐるに過ぎずと諸橋氏起意無しとの宣傳を流布殊に改選を目指にして起意なき諸橋氏に委任状を預けても何等の効なしと卑劣極まる委任状取消の運動を株主個人毎に行ひ自派を有利に導かんとしてゐる者も現はれ巷間遂に諸橋氏起意なきものとして此の策動に乗せられたものもあるが此れに對し諸橋氏自身は當初から出馬の意志は微動だにせず唯株主よりの委任状に信頼し表面立つた運動を爲さなかつたに過ぎず然も改選を目前にして某派の惡辣極まる委任状取消しの策動現はれるに至つたので從來の消極的戰法を一轉自ら陣頭に立つて此れに對抗せんと決意十一日全縣下株主及某派の惡宣傳に迷はされてゐる

謹啓愈々御清祥奉賀上候
扱來る十九日行はるゝ本縣農工銀行重役改選問題に付多大の御同情を蒙り多數委任状を御附託被下御厚情難有御禮申上候然るに近時小生起意無之旨を流布し委任状取消し運動を爲すもの有之哉に仄聞致候實は株式會社の重役は株主各位の總意に依り選任せらるべ

昭和九年八月十一日 福島縣平町 諸橋久太郎

二 候補 安協絶望

決 戰 に 備 わ て 猛烈 な

株 主 委 任 状 の 夺 取 戰

諸 橋 久 太 郎

紛糾の極遂に三週間延期された本縣農工銀行の改選も愈々余す込なく決戦投票の外はないものと見られ三派とも此れに備えていたので縣下各地とも猛烈な運動株主委任状の蒐集に努め満通りが續けられてゐる、殊に濱通り全般は勿論縣下各地にまで手を

も態度頗る强硬で到底妥協の段方法によるべきものに無づと相應じ小生は素より積極的運動等は差控へ申居候ごも既に小生の爲め委任状御附託被下候各位を信頼し當然堂宇選し得るものと期待能在候間断斯る惡行爲に欺瞞せられざる様倫に御願申上度爲念以書由得貴意候

農銀重役改選に際し終始諸橋・金成兩派の調停斡旋に努めてゐた前代議士木村清治氏もその後石田侍従武官磐崎点呼場へ畏きあたりから御差遣の石田侍従武官は今十三日磐崎小學校庭に於いて舉行された。湯本、磐崎の簡閱点呼場に臨席奏第二師團長、畑山知事、聯隊區司令官代理佐川中佐、末原學務部長、大井川執行官以下を從えて点呼を査閲後聖旨を傳達した。尙石田武官は今十三日住吉屋本店に一泊、明十四日午前八時十九分平驛發下り列車で奏第二師團長と共に仙臺に向ふ豫定。

最適任爲めに之代土三三三る

勿來町長赤津庄兵衛氏、同町郵便局長赤津一氏等主唱により勿來野球協会を設立地方球界に雄飛の計畫中であつたが此の程創立成つたので来る十八、九の兩日に亘り協会創立記念野球大会を開催する事になつた參加希望者多し。勿來町長赤津庄兵衛氏、同町郵便局長赤津一氏等主唱により勿來野球協会を設立地方球界に雄飛、磯原間にある郡隣接茨城の町村に在る他の制限ないが、大優勝旗を授與には大優勝旗を授與

來十八、九の兩日盛況は十五日まで
ノムは十五日まで
れたいと、尙大會出立の計画中である
立成つたが此の程創立記念野球大会には大優勝旗を授與

最も多く回春園の入院患者
七月末日の入院患者
西白河二、東白河
安達一、信夫一、
沼二、南會津一、
福島五、計五十三
患者二十六名)

恩恵に浴す石城郎
七月末日の入院患者
西白河二、東白河
安達一、信夫一、
沼二、南會津一、
福島五、計五十三
患者二十六名)

農間村峰立回春園に於ける七月
末日現在の入院患者數は男四十五名、女八名、計五十三名であるが之を地方別にすると石城男
二十二、女六、計二十八名がそ
の大半を占め而もその二十八名
中には赤十字社關係の施療患者
四名、濟生會の九名計十三名が
含まれてゐるから地元が最も多く回春園の恩恵に浴してゐるわけである、地方別患者數左の如
石城二八、双葉四、相馬四、以下町村長多數出席

高濱地方課
來郡事務
本縣高濱地方課長は

最も多く田春園の
医療施設として治石城院

卷一百一十一

に出場申込
場資格は皇
南町村並に
るチームで
優勝チーム
すると。
した。

